

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が利用者の立場になって、自分たちで作上げた基本理念を共有し実践につなげ努力している。	法人理念のほかにグループホーム理念を職員で話し合い作られている。「愛」という言葉に続き職員の思いが理念に反映されており、外部の方にもわかるように玄関に理念が掲示されている。法人の関連施設があるが馴染みの関係を重視し、異動は極力少なくしている。職員は理念を理解し業務に就いており、自らがしてもらいたいこと、当たり前のことなどを念頭にやさしい気持ちで接するように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の場で、地域役員の方と情報交換をし、交流できる方法などを話し合っている。日常的に散歩や買い物にでかけ、地域やスーパーの方々とは気軽に声をかけてくださるようになっている。	利用者の生活の安定を第一に考え地域との関わりを利用者の様子を窺いながら実施している。また、よく買い物に出掛ける近所のスーパーの店員とも顔見知りになっている。昨年から今年にかけて利用者がお亡くなりになるなどの移動があったことから今年度の夏祭りはホーム関係者で行われ、家族の横のつながりも広がり、ボランティアや友人・知人の参加で賑やかに実施された。地域からも夏祭りの誘いがあったが会場が遠いため参加を見送っている。以前のホーム利用者家族より野菜等の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、役員の方々の質問に答えたり、認知症の症状についてお話ししたなかで、地域の方に伝えていただくようお願いしています。気軽に来訪していただけるように啓発していきたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、現状・取り組み・課題などを報告し、参加者の皆さんから質問や意見などをいただき今後に生かす努力をしている。	家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員の参加で2ヶ月に1回行われている。ホームの現況報告と今後の予定を伝え、委員の方々から意見を頂いている。区で行われている「お茶のみサロン」を同じ法人の隣接施設の地域交流スペースで開催することを提案したり、民生委員の方々の見学の受け入れ、地区の独居老人との関わり方等を話し合っている。今後の避難訓練に委員の方の参加をお願いしていこうという意向もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新時の認定調査時や運営推進会議の機会に市担当者へ利用者の暮らしぶりを伝えたり、相談にのっていただいたりしている。	市で開催する会議や勉強会に参加し他のグループホームとも情報交換している。地域包括支援センター、市職員とホームのことや地区の情報を話し合える関係となっている。介護保険の更新調査はホームで行い、参加できる家族もいるが多くの職員が対応し利用者の状況を正しく伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が抑制にあたるのか常に注意している。玄関は施錠しているが利用者の外出希望時にはその都度一緒に行っている。	夜間トイレへ行く時に転倒の不安があり医師からセンサー使用をすすめられている方が若干名いる。利用者の殆どはベッド使用であるが、若干名の方が転落等の危険があるため床に布団を敷いて就寝している。ベッドの柵も1ヶ所位で利用者の立ち上がりの補助となっている。ドアにかわいらしい鈴が下げられている居室も見られた。	

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は利用者に対し言葉や態度での暴力をしていないか、互いに気が付いたことがあればその場で注意するかリーダーに報告し再発防止に努めるとともに、自ら振り返り考えることができています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に研修を受けたが、現在対象者はおらず、必要な方の入居を検討する際にもう1度学びなおしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書、運営規定の全項目を家族とともに確認し、質問などに答え、理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1か月に1度その月の様子の写真をプリントし手紙をそえて家族に送っている。面会時には口頭でも普段の様子をつたえている。その際意見や、要望がきかれたら運営に反映させるようにしている。	利用者の多くが自分の意思を伝えることができる。冷房が効きすぎると温度管理について要望を出したり、異性の介助についても自らの意向を表すなどその都度利用者が伝え職員もそれに応じている。毎月、スナップ写真と近況報告の手紙が家族の元へ届けられている。夏祭り、敬老祭、外出行事などは家族に声掛けし参加をお願いしている。夏祭りには沢山の家族の参加があり、家族同士の交流も出来て喜ばれた。ホームへの来訪時には必ず声掛けし意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で職員誰もが意見や要望を言いやすい環境づくりを心かけている。月1回のミーティング時にも意見を言ったり提案をする時間をもうけている。また個別に問いかけたり、聞き出したり1人で悩まないように配慮している。 職員からでた提案には可能な限りこたえる努力をしている。	職員の構成は10代から60代と幅が広い。職員同士のコミュニケーションが良く、仕事を楽しく出来る環境となっている。月1回のミーティングは全員が参加し、その後、ユニット毎に分かれカンファレンスをしている。管理者が進行を担当しているが、一人ひとりに意見を聞いている。「気付きノート」を活用し「こんな方法で」と投げかけ、それぞれ職員が実践しその結果の話し合いをし改善へとつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のライフスタイルに合わせた働き方で勤務してもらっている。 各自の介護への思いが実現しやすい環境づくりを心がけ、個々の目標に向けて努力できるようにサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自身の介護の仕事には、それぞれ課題を持って取り組んでおり、仲間と意見交換をしたり、リーダーに相談したり実践しながら力をつけている。また社外研修や社内研修に参加できるようにサポートしている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺平グループホームねっとの研修会に参加し、各事業所の意見交換を行っている。 相互の研修生受け入れも行っており、さらなるサービス向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、ご本人の思いに向き合い、新しい環境や職員を受け入れていただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、私たちはどのように支援していくか具体的にお話し、信頼して任せいただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時やケアマネージャーからいただいた情報を元に、ご本人とご家族が必要としている支援を把握し、グループホームの特色や当施設の理念を説明し理解していただいている。 ご本人の状態や、求めるサービスを把握し、他のサービスも含め説明したり、提案させていただき、ご本人に合った生活を送れるように一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に教えていただくことは多い。互いに足りないところを補えるような関係作りができています。職員・利用者の枠ではなく、人と人とのつながりを大切に考え、お互いに相談しあえるような信頼関係も築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊に制限はなく、急な場合も対応している。ご家族にしかできない支援があり、いつまでも絆を持ち続けていただくためにも、ご本人を支えていただくための協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば支援できる体制は整っている。知人が訪ねてきたときには自室でゆっくり過ごしていただいている。馴染みの場所に定期的に出かけている方もおり、ご家族の協力も得られている。	奥さんのお見舞いに毎週出かけ帰宅時に家に立ち寄り様子を見てくる方や昔の教え子にかかりつけの美容院まで送迎をしていただいている利用者がある。お正月、お盆なども家族の送迎と一緒に帰宅する方や孫の結婚式に参加をする方などもある。新しい利用者の不安を取り除くために親身になって世話をしたり手助けをしている利用者もおり、利用者間でも徐々に馴染みの関係が出来上がっている。	

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が見守ったり会話の間に入ったりし利用者間でトラブルがおこらないように楽しく過ごしていただけるように配慮している。 利用者同士、不安や心配事を話し、励ましあっている姿もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切にし、その後のご本人の様子を伺ったり、入院先にお見舞いに行ったり、ご家族の相談にのっている。 平成25年に入院の為、退所した方が退院できることになり、相談に訪れていただき今年再入所した方がいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、ご本人の望んでいることを把握するように努めている。また、言葉や行動から見て取れる真意は何なのか話し合い検討している。ご本人の意向も変化するので、その都度検討し意向にそうようにしている。	本人がどう思っているか、その気持ちを一番大事にし、家族の同意を得ながら対応している。薬の影響で生活レベルの低下が見られ利用者や家族が不安になった時、医師にも相談しながら服用の一時停止を提案したり、行動を広げることができそうな利用者に対応できる社会資源などの提案もしている。利用者の思いや自宅からの延長の自分らしい生活が継続できるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り自宅で面談し、生活歴や生活環境を把握するよう努めている。ご家族にも聞き取りを行い、アセスメントにセンター方式の一部を用いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの1日の過ごし方が決まってきたり。利用者1人1人有する能力を発揮する場面もあり、ゆっくり過ごせる時間もある。心身状態やその日の気分に応じ臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でご本人、ご家族の意向を聞いたりくみ取ることで、ご本人がより良く暮らすために課題とケアの在り方を話し合い検討している。月1回のカンファレンスを行い、必要時には個別のカンファレンスを行う。話し合いを元にして計画作成担当者が介護計画を作成している。	利用開始時に利用者や家族の要望・意見を聞き作成している。各ユニットリーダーが計画作成担当者となり、毎月行われるカンファレンス、日々の記録の中から読み取り、利用者の思いを反映している。また各ユニットごとのカンファレンスにおいて、定期的な評価、見直しもしている。家族へは訪問時に説明をし承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に利用者の発した言葉を大切に考え、会話のやり取り・行った対応・その結果を、その場になくても状況がわかるような記録を心掛けている。またユニットごとに連絡ノートを活用し、気づきや検討したいことを書き込み、全員で情報を共有し、実践や介護計画の見直しにいかしている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、既存のサービスにとらわれず柔軟な対応をしている。最近入居した利用者はお仏壇を持ってきており、朝お供えの為、ご飯とお茶をあげている。仏様のご飯を下げた後は職員が食べている。働いているご家族も多く、遅い時間の面会も受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行き食材やおやつを選んでいただいている。散髪は近所の理髪店が出張してくれている。限られているが顔なじみの関係ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医がある場合は継続して利用していただいている。受診の際は生活の状況や体調をご家族に伝え医師に報告していただいている。入居時、施設の協力医に変更する方もいる。協力医は月1回往診にみえ健康管理を行ってくださっている。電話での相談にも気軽に応じてくださり、急変時も迅速に対応してくださる。	かかりつけ医を継続される方、希望により協力医に変更される方等、様々であるが、協力医による月1回の往診は利用者全員が受けることができる。また、協力医による年2回の健康診断も行われている。定期受診の付き添いは家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきで、医療的な事柄においては看護師に相談・報告し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	入院した際、安心して治療ができるように、またできるだけ早期に退院できるように、ご家族ともよく話し合い、病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を書面で説明し理解を得ている。心身の状況に変化があればご家族に報告してさらに具体的な話し合いを行う。入居している方のご家族ほとんどが延命を望んでおらず、当施設で最期を迎えてほしいとの希望が多い。今年はほとんど寝たきりになってしまった利用者と職員の為に、オムツの当て方、移乗の仕方の研修を行った。	利用開始時に重度化した場合についての対応を説明している。また、利用者が終末期に入りそうな時に医師の意見や家族の意向等を聞いて対応している。今年2名の方が医師の往診の下ホームでの生活を送っていたが救急で搬送され、また、褥瘡で入院された方も病院でお亡くなりになられた。過去にホームでお亡くなりになられた時には利用者、職員でお見送りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて看護師による応急手当や初期対応の確認を行っている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の消防団の方々や民生委員の方々に施設内の見学をしていただくと共に、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。また隣接する施設の職員との協力体制もできている。	前回の外部評価受審後「防火点検表」を作成し、毎日、時間帯の勤務者によって電源等の点検を義務づけ防災意識を高めた。今年5月には「夜間想定」で訓練が行われ、消防署に計画書を出し避難についての助言を受け、マニュアルも作成した。また、館内放送を利用し、利用者、職員、隣接の施設職員の協力で行った。訓練後の反省を次回の訓練に繋げようと検討を加えており、運営推進会議で委員の方にも参加協力をお願いしたいとの意向もある。ホームには水や生活用品などの備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時でも、お手伝いさせていただくという気持ちで接し、さりげないケアを心がけている。誇りを損なわないような言葉かけや対応を心がけ1人1人を大切に考えている。	職員は理念を理解し業務を遂行している。出来ることは利用者によっていただくようにしており、うまく出来なくても時間がかかっても職員は見守りに徹しすぐには手を出さないように心掛けている。利用者が自分で決めたスケジュールを尊重し、行動を制限したり言葉をさげすんだりすることのないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で決めたことを押し付けるようなことはせず、ご本人が選べるような問いかけを心がけて、いつでも自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし、それぞれに合わせた対応をしている。今行っていることは妨げず見守り、軌道修正が必要な場面では、自然に次の行動に移せるように導いている。その日、その時のご本人の気持ちを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大浴時・起床時・外出時などご本人が服を選んだり、一緒に選んだりしている。起床時の整容は基本にご自分でしてもらうが、足りないところはお手伝いする。女性利用者が化粧品の広告を見てハリ・つやと言う文句にひかれ「これ欲しいわ。」と言う方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好き嫌いを把握し、苦手な物は違う物と変更し臨機応変に対応している。好みの物も食べられるように献立やおやつに組み込んでいる。月に1回外食したり、出前を取ったりしていつもと雰囲気を変えた食事を楽しんでいただいている。調理の下準備や盛り付け、食器拭きなどお手伝いしていただいている。	一昨年に法人系列の地域密着型特養が向かい側にできたことにより食事の副菜は特養厨房で作られ、ご飯とみそ汁をホームで調理している。職員と一緒に「お米が美味しい」、「豆腐が多いんじゃない？」などと感想や世間話をして楽しく食べている。ほぼ全員が自立しているが日により職員の手助けを必要とすることもある。せかせるような行動は見られず一人ひとりのペースに任せており、ゆっくりではあるが全員が完食していた。出張ラーメンをホームで楽しむこともあるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し個別に量の調節をしている。偏食気味の利用者にも「残してもいいので少しでも食べてほしい。」と声掛けし食べていただいている。左手にあまり力が入らないとのことで、器を軽い物に変え、スプーンをつけ自力で食べていただいている。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただくように声掛けを行っている。ほとんどの利用者は自分で行えるが、不十分な方はお手伝いさせていただいている。就寝前には義歯を外し洗浄液につけていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を使用し、排せつパターンを把握している。自らトイレにあまり行かない利用者に関しては、できるだけ行動と行動の節目に自然なかたちでトイレに行かれるように声掛けを行い、自立にむけた支援を心がけている。	自立されている方が三分の一ほどおり、見守りをしている。介助が必要とされる方は時間等を見計らい声掛けし、様子を見ながらトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を基本としており、夜間も利用者が起きてトイレに行っている。コールやセンサーの反応があった時も職員が介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスのとれた食事の提供と、水分補給をしていただき、適度な運動を行えるように配慮しているが、便秘症の方も多く整腸剤の服用をしている。排便のあった日はチェックし便秘が続くようであれば医師に相談し、下剤を服用してもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴を行っている。希望があれば時間や回数は個々に対応する。入浴時間は個々のペースに合わせて時間を気にせずゆっくり入っていただいている。	浴槽が少し深く不安であったが、昨年浴槽を取り換え浴室の床もリフォームし利用者や職員にとって安全な浴室となった。1人30分位で少なくとも週2回は入浴しており、居間には入浴の割り振り表が貼り出されている。利用者の中には介助を嫌がり一人で1時間位入浴している方がいるが職員は戸の外から声を掛け見守りをしている。拒否する方には無理強いすることなく声掛けを工夫しながら入っていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活のパターンを把握したり24時間のうちの睡眠のとり方を把握している。過去に睡眠導入剤を服用していた方も、内服をやめても眠れている。やめても眠れないと訴える方もいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の薬の説明書を利用者ごとにファイルし職員が把握できるようになっている。服薬時にはご本人に手渡し服薬確認をしている。体調に変化がみられた場合は看護師に相談し、医師の指示を得られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力を発揮していただけるように支援している。ご本人が自分の仕事として張り合いを持って行ったださる方もいる。オセロが好きな利用者は職員相手に真剣に勝負して楽しんでいる。		

グループホーム愛ランドまめじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩にお誘いしても意欲と体力がなくなってきていて断る方が増えてきた。個々にお誘いしたり、意欲のある方は散歩や買い物に出掛けている。今年は善光寺のご開帳があり、ご家族の協力もいただき行ってくることができた。回向柱をさわり、お参りし、回向柱のストラップのお土産を渡すと喜んでいただけました。	外へ出ることがおっくうになってきている方が多いので、室内で参加できる方が時間になったら一緒にユニットの廊下をそれぞれのノルマを決めて歩いている。朝一番で近くのスーパーに行く方もいる。お花見、おひなさまの展示や菊花展の鑑賞、動物公園等への外出行事がある。加えて今年は善光寺の御開帳に家族の協力もあり参拝ができ、日頃の行いが良いせいかあまり混まずに皆が回向柱に触ることができたという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所してからお金を使用する場面は無いが、ご本人の希望により所持している利用者も数名いる。買い物に行き消耗品を購入する利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自ら電話したり受けた電話を代わったりして、家族や知人とのやり取りができるようにしている。1名の利用者は手紙のやり取りを続けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔で快適な居住環境整備を心がけている。開設時よりADLが低下した方が増え、浴槽の改装工事を行い、以前より安易に入浴ができるようになった。季節の花を飾ったり、季節に合わせた飾りつけを利用者で行っている。	玄関ホールに職員一人ひとりの笑顔の写真と手書きのプロフィールが貼り出されている。親しみを感じながら戸をあけると職員の爽やかな挨拶で出迎えられた。ホールには御開帳や雛祭り、お祭りのスナップ写真などが飾られている。利用者と職員で共同制作した干支のカレンダーも飾られている。本棚には本が並べられテーブルの他にソファもあり、テレビや本等を自由に好きな場所で見たり読んだりできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを2つ置き、利用者同士でおしゃべりしたり、一休みしたり思い思いに過ごせる環境ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室はご本人の使い慣れた物や、馴染みのあるものを置いたり、使いやすいように整理されている。テレビを持ち込んでいる利用者は居室で好きな番組を好きな時間に観ている。	居室には収納ダンスがあり季節違いの衣服等は片付けられている。ベッドが主であるが利用者によっては布団を敷いて生活をしている。ご主人の写真やミニ仏壇、テレビ、テーブル等、思い思いの物が家庭より持ち込まれその人らしい居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や、自分の部屋がわかりやすいように張り紙をしている。安全に生活できるように物の配置の環境整備に配慮している。		